

まちづくりの目標の各章にまたがって提起された課題を「総合的に取り組む重点課題」としてまとめ、基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けて取り組みます。

この重点課題は、各章に共通する課題を個別の政策や組織に捉われず、相互に連携・協力して取り組むもので、後期基本計画では、前期基本計画の重点課題を見直し、引き続き4つの課題を掲げました。

前期基本計画における「総合的に取り組む重点課題」

- 1 地域コミュニティの醸成
- 2 「みんなで育む」子ども支援
- 3 環境に配慮したまちづくり
- 4 所沢ブランドの創造と地域経済の活性化



後期基本計画における「総合的に取り組む重点課題」

- 1 絆を紡ぐまちづくり
人と人の絆を紡ぎ、助け合いを支援します。また、地域におけるネットワークの整備を進め、地域力の向上に取り組みます。
- 2 子どもを大切にすまちづくり
市の宝である子どもたちが健やかに育つまちをめざします。そして、「学ぶなら所沢」と言われる教育環境を創ります。
- 3 人と自然が共生するまち“エコタウン所沢”の実現
エネルギー資源に依存するライフスタイルの見直しを進め、みどり豊かな「ふるさと所沢」を守り育てる、マチごとエコタウンを創造します。
- 4 所沢ブランドの推進とまちの活性化
市が持つ資源を機能・調和・融合させて、「所沢ブランド化」を進めながら、産業の発展を支援して、まちの活性化に取り組みます。



◆ 推進体制 ◆

前期基本計画では、関係施策を担当する次長職が「政策マネージャー」となり、進行管理を行っていました。

後期基本計画では、部署間の連携強化や、より円滑な進行管理を行うため、この体制を見直し、担任部長を「ゼネラルマネージャー」とする新たな推進体制により、取り組みを進めていきます。



1 絆を紡ぐまちづくり

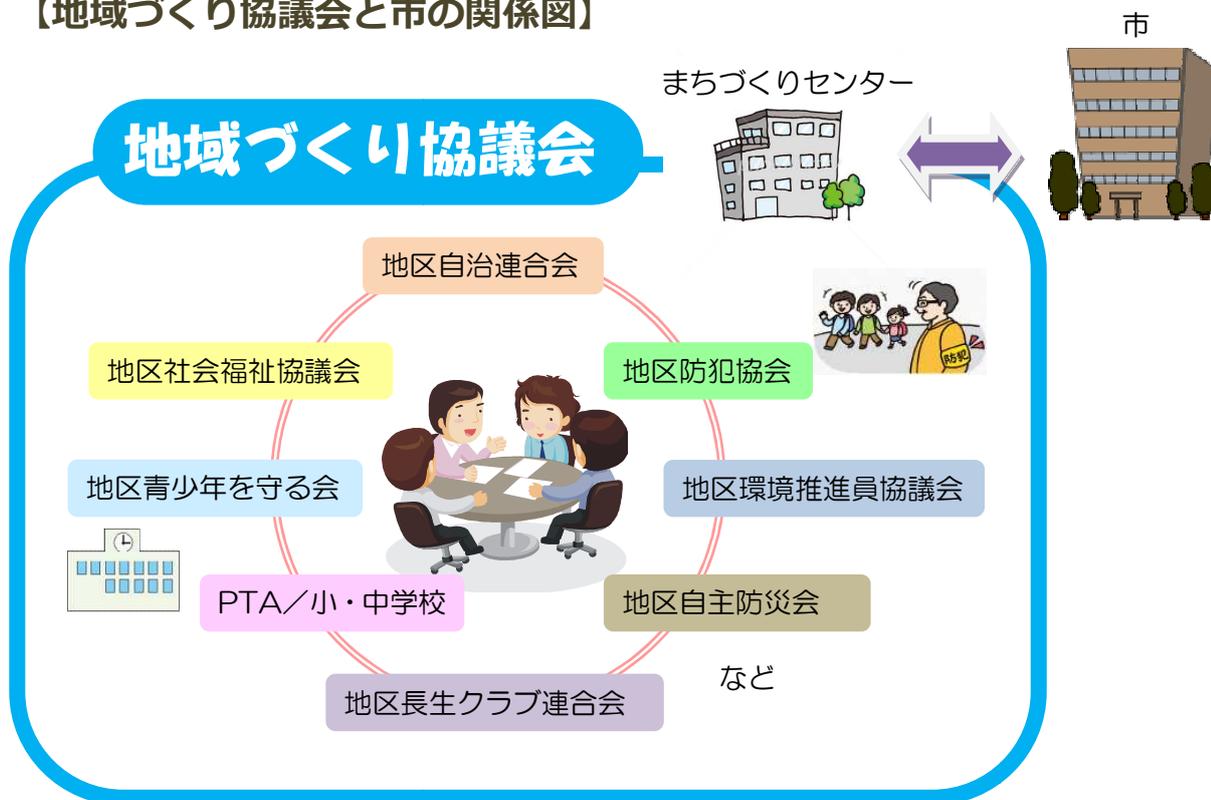
東日本大震災は、私たちに改めて「人と人とは支え合い、助け合いながら暮らしている」ということを教えてくれました。さらに、緊急時や災害時において、行政の働きに限界があることも見えてきました。このようなことから、まずは自分の力でできることは自分で行い、さらに地域に暮らす人々の持つ地元貢献への想いや経験に基づく知恵を束ねていきながら、それぞれの役割と立場に応じて貴重な時間やお金や労働を提供し合い、「お互いのために自らが力を発揮しよう」という「共助」の精神に支えられた地域社会を築き上げていくことが重要になっています。

本市においては、平成23年度には各行政区に「まちづくりセンター」を開設し、地域ネットワーク活動のための拠点施設を整備しているところですが、引き続き厳しい経営環境の中で発生する多様な調整課題に対し、「地域でできることは地域で解決する」ため、さらに地域にふさわしい仕組みに改めていくことが求められています。

同時に、自治活動の中心にある自治会・町内会については、平成26年度に「所沢市地域がつながる元気な自治会等応援条例」を制定し、人と人の絆を実感できるまちづくりを行っていくこととしました。引き続き、ご近所づきあいの中で困った時は「お互い様、隣近所で助け合おう」と繋がりを求めつつ、自治会・町内会への加入及び参加促進に力を入れていきます。

今後はさらに各地区に誕生した「地域づくり協議会」を母体として、関係団体の有機的な繋がりや自由な市民活動のサポートに努め、地域に貢献し得る人材や組織を育てる活動に協力していくことでその絆を強め、幸せが実感でき住み続けたい地域への愛着心のさらなる醸成を図るとともに、住民自治本来の地域が決める体制づくりを進めていきます。

【地域づくり協議会と市の関係図】



※「地域づくり協議会」により、各活動団体が共有化された課題認識を持ち、課題の円滑な解決へ繋がるものです。



◆ 取り組み方針 ◆

(1) 地域づくり協議会活動の促進

まちづくりセンターを拠点とした「地域づくり協議会」により、地域における各種団体の繋がりを強めるネットワーク活動を通して、社会の環境変化に伴って新たに生じるさまざまな地域課題に対しても自律的に対応してその解決をめざす「地域でできることは地域で解決する」仕組みづくりを一層進めていきます。

(3) コミュニティ活動のための環境づくり

住民の自治意識を高め、身近な地域課題の解決に役立つよう、コミュニティ活動や地域に関する情報の提供、高齢者はもとより子どもたちや若者など、これからの地域を担う人材の育成、地域づくりの場となる施設等の整備等、コミュニティ活動のための環境づくりを行います。

(2) 暮らしやすさが実感できる行政体制の整備

住民自治が主体的な活動を展開していくことに伴って生じる地域からの意向・要望に対し、行政が迅速・適切に対応していくことが可能となるよう、まちづくりセンターを中心とした地域公共機関が本庁組織と連携を図ることでその能力を十分に発揮し、地域力を高めていきます。

(4) 住民自治活動の支援

地域社会を作る主役は住民であるという意識のもとに、地域において重要な役割を担う自治会・町内会への加入参加を促進するとともに、支援します。

また、地域において活動するNPO等の公益的な団体に対して、市民活動支援センターを中心に引き続き支援を行います。

◆ 計画期間における目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|-----------|----|------|----------|
| 地域活動への関心度 | % | 49.1 | 55.0 |

説明：地域活動に対する市民の関心を測る指標です。

現状値は、平成25年度の市民意識調査の設問「あなたは、地域の自治会やボランティア活動、福祉や青少年活動等に関心がありますか」に対し、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人の割合です。目標値は、55%をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|------------|----|------|----------|
| 地域活動への協力意向 | % | 57.8 | 65.0 |

説明：地域活動に対する市民の協力意向を測る指標です。

現状値は、平成25年度の市民意識調査の設問「あなたはお住まいの地域をもっと住みやすくするために、地域の人々が集まって何か行動しようとしたら、協力しますか」に対し、「どちらかといえば協力したい」と答えた人の割合です。目標値は、65%をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|------------|----|------|----------|
| 地域のつながりの変化 | % | 14.2 | 20.0 |

説明：地域のつながりの変化に対する市民の受け止め方を測る指標です。

現状値は、平成25年度の市民意識調査の設問「あなたがお住まいの地域のつながりは、以前（5年程度前）と比べ、どのように変化したと感じますか」に対し、「強くなった」「どちらかといえば強くなった」と答えた人の割合です。目標値は、20%をめざすものです。



2 子どもを大切に作るまちづくり

子どもは市の宝であり、子どもたちが、夢と希望をもって健やかに成長していくことは市民の願いです。

近年、子どもや教育現場を取り巻く環境は、急速な少子高齢化・核家族化の進行、地域のつながりの希薄化などにより、大きく変化し厳しさを増しています。

こうした中、国では、新たな子ども・子育て支援制度を制定しました。この制度のもと、本市においても平成27年度から31年度までの5年間を計画期間とする「所沢市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、幼児期の学校教育や保育、地域の子ども・子育て支援の充実を図ります。

子どもたちにとって、小・中学校で学ぶ期間は、人間として心豊かに「たくましく生き抜く力」を身に付けなければならない重要な時期です。その時期の子どもたちと大きく関わる教職員の力量を高め、教職員が十分に力を発揮できる環境づくりや、学校と地域との連携や学校施設の充実に努め、21世紀を生きる子どもたちの社会的自立の基礎を育てていきます。

そして、子育ては、一義的責任は保護者であることを基本とし、地域・社会が子どもと保護者に寄り添い、子育てや子どもの成長を家族などの身近な人が喜びや生きがいとして感じることができる社会をめざします。

さらに、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などによって見失いがちだった、人への優しさや思いやり、家族の絆などを深めるための子どもを中心とした世代間交流の取り組みを進めます。



◆ 取り組み方針 ◆

(1) 教育力の向上

子どもたちが変化の激しい社会を生き抜く力を身に付けるためには、確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育成する学校の教育力、子どもたちの健やかな育ちの基盤となる家庭の教育力、社会性を身に付けさせる地域の教育力、これら三つの力の向上と連携・協力は欠かせません。

そこで、学校の教育力・教育の質の向上をめざして、市立教育センター等での研修の充実を図ることにより教職員の実践的指導力を高めるとともに、指導体制・教材等の整備や効果的な指導方法にかかる研究の支援を強化します。

また、大学等との連携や教育に対し熱意のある地域の方々との協力も得ながら、一人ひとりの教育的ニーズに対応したきめ細かな教育の充実を図ります。

家庭や地域の教育力の向上を図るためには、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や道徳性、自立心などの豊かな心を育てていける家庭教育に関する学習の支援や地域の力を活かした、子どもたちや学校の活動の支援を充実します。



◆ 取り組み方針 ◆

(2) 子ども・子育て支援の充実

子どもたちが健やかに育つために、市・地域・家庭・団体・事業者が連携し、子育ての喜びを実感できる地域づくりを進めていきます。

また、平成24年に制定された、「子ども・子育て支援法」に基づき、質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供及び地域の子ども・子育て支援の充実などを推進するため、「所沢市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、対応を図ります。

子どもは大人とふれあいながら、さまざまなことを学び成長します。そこで、子どもを中心として家庭での多世代交流や地域でのつながりと交流を大切にし、多世代のつながりを深める施策に取り組みます。

(3) (仮称) 所沢市子ども支援センターの整備

少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化などにより、地域の中で家庭が孤立しがちになり、子育ての知恵が世代間で伝承されにくくなっています。

また、近年、発達が気になる子どもが増加傾向にあると言われています。

こうしたことから、子育て支援と発達支援の機能をあわせ持ち、相互に連携できる施設として平成28年度に(仮称)所沢市子ども支援センターを開設し、本市の子育ての核となる拠点を整備します。

◆ 計画期間における目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|---------------|----|-----|----------|
| 教育センター研修会の満足度 | % | 72 | 76 |

説明：教職員の資質の向上を測るための指標です。

現状値は、平成25年度に開催した、資質向上や児童・生徒の学力向上をめざした研修会に参加した教職員の満足度(ABCD)のうち、A「たいへんよかった」が占める割合です。

目標値は、76%をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|------------------|----|---------|----------|
| 地域子育て支援拠点施設の利用者数 | 人 | 126,685 | 256,000 |

説明：地域における子育て支援の充実度を示す指標です。

現状値は、平成25年度の子育て支援拠点施設の利用者数です。

目標値は、256,000人をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|-----------------------|----|-----|----------|
| (仮称)所沢市子ども支援センターの利用者数 | 人 | — | 64,000 |

説明：地域における子育て支援の充実度を示す指標です。

※平成28年度の開設予定のため、現状値は空欄

目標値は、64,000人をめざすものです。



3 人と自然が共生するまち “エコタウン所沢”の実現

私たちの社会は、便利さ・快適さを追求するあまり、物質的な豊かさを追い求め、大量生産・大量消費を繰り返し、多くのエネルギー・資源を消費してきました。その影響は、地球規模での気候変動に達し、各地で台風の大型化や最高気温の更新など、地球温暖化と思われる事象が顕在化しています。

私たちは東日本大震災を経験し、自然の脅威、エネルギー・資源の大切さ、さらには自然の恵みを受けながら自然と共に生きることの重要性を改めて知りました。今こそ、一人ひとりがライフスタイルを見つめ直し、人と自然との絆を紡ぎ、将来を担う子どもたちにみどり豊かなふるさとと所沢の環境を継承していかなければなりません。

そのため、環境負荷の低減を図り、持続的発展可能な社会（＝エコタウン）の実現に向け、「まちごとエコタウン所沢構想」に基づき、エネルギー使用の抑制や自然が作り出すエネルギー（再生可能エネルギー）の利用、

「もったいないの心」を大切に資源を無駄にしない3Rの取り組みを推進するとともに、潤いとやすらぎを与えてくれるふるさとのみどりの保全と創出に取り組みます。

市民・事業者・市すべての人々の“人と人との絆”のもと、人と自然が共生するまち“エコタウン所沢”の実現をめざします。



◆ 取り組み方針 ◆

（1）エネルギー・資源の抑制と創出

エネルギー・資源の過度な使用を抑制するため、省エネルギー機器の普及、住宅の環境性能の向上、エコモビリティの推進などの取り組みを進めます。また、市域における再生可能エネルギーを創出するため、メガソーラーの設置運営等の先導的な取り組みを進めるとともに、太陽光発電設備や太陽熱利用システムなどの普及支援の充実に努めます。

エネルギー・資源の大切さや地球温暖化対策への理解を促す環境教育や環境学習の取り組みを進め、これらの課題に関する市民意識の高揚を図ります。



メガソーラー所沢
（愛称：とことこソーラー北野）



◆ 取り組み方針 ◆

(2) ふるさとのみどりの保全と創出

自然あふれるみどりや川で、未来の子どもたちの豊かな心が育まれることをめざして、市・市民・市民団体・事業者による主体的な取り組みと協働により、本市の魅力あるみどりを保全します。

また、私たちの日々の暮らしに潤いとやすらぎを与えてくれる街中のみどりを創出するため、公園の整備や道路・学校等の緑化のほか、みどりの街並みを形成する取り組みを推進します。



所沢航空記念公園の桜

(3) もったいない！ 3R行動の実践

循環型社会の構築をめざし、リデュース（ごみの発生・排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の3R行動の実践を促すなど、ごみの減量と資源化を推進するとともに、安心・安全なごみ処理体制を維持するため、焼却施設等の更新や最終処分場の整備に取り組みます。

また、リサイクルふれあい館「エコロ」を中心に、3R関連情報の発信や各種講座の開催等に取り組み、市民・事業者の「もったいないの心」を醸成します。



もったいない市

◆ 計画期間における目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|---------------------|----|------|----------|
| 市域における温室効果ガス排出量の削減率 | % | 0.89 | 3.80 |

説明：地球温暖化対策の効果を示す指標です。

現状値は、「所沢市地球温暖化対策実行計画」（区域施策編）に掲げる目標で、平成19年度を基準年度とした温室効果ガス排出量の平成24年度の削減割合です。

目標値は、3.80%をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|---------------|----|-------|----------|
| 新たに確保するみどりの面積 | ha | 28.34 | 42.00 |

説明：緑地保全の取り組み状況を示す指標です。

現状値は、「所沢のみどりの基本計画」に規定する地域制緑地を新規指定・拡大・指定替え（保全強化）した平成25年度の面積です。

目標値は、4.2haをめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|---------------|-------|-----|----------|
| 市民1人当たりのごみ排出量 | g/人・日 | 618 | 578 |

説明：ごみ減量に関する取り組みの成果を測る指標です。

現状値は、平成25年度における事業活動から出るごみや集団資源回収されるものなどを含まない、市民1人が1日に排出するごみの量です。

目標値は、平成30年度までに578g/人・日をめざすものです。

※578g/人・日は「所沢市一般廃棄物処理基本計画」の平成32年度減量目標値566g/人・日を按分したものです。



4 所沢ブランドの推進とまちの活性化

本市は、首都圏30kmに位置し、都心へのアクセスもよいことから、埼玉県内で有数の人口規模を誇る一方で、狭山丘陵をはじめとした豊かな自然も残されています。歴史的には、日本初の飛行場ができた「航空発祥の地」であり、その跡地の航空記念公園は、市民のみならず多くの人々の憩いの場となっています。

また、埼玉西武ライオンズと埼玉ブロンコスとの2つのプロスポーツチームの本拠地でもあり、毎年多くのファンが観戦に訪れています。産業部門では、狭山茶、さといも、ほうれん草など県内有数の農業産出額を維持している一方で、楽器やスポーツ用品、精密機器など世界に名だたる工業製品を生産する企業も有しています。

前期基本計画では、これら魅力ある資源に本市ならではの行政施策を加えて、所沢ブランドの創造、確立に取り組んできました。引き続き、新たなブランド発掘を進めながら、後期基本計画ではこれを一歩進め、既に確立されたブランドや都市イメージの効果的な活用を推進し、まちの活性化にもつなげていきます。

“所沢らしさ”を市内・市外（全国）へ発信

総合的推進と効果的・効率的な戦略づくり

行政+外部機関との連携（産官学民等）

都市ブランド（イメージ）の例

都心からアクセスのよいまち 緑豊かなまち
災害の少ない安全なまち 住みよいまち
航空発祥の地 文教都市 など

個別ブランドの例

優良農産物
世界的な工業製品
プロスポーツチーム
手打ちうどん
焼だんご
など

ミュージズ
所沢航空記念公園
滝の城址
プロペ通り
トトロの森
など

農あるまちづくり
とことこガーデン
マチごとエコタウン
みどりのふれあいウォーク
音楽のあるまちづくり
ご近所協定
など

引き続き
新たに選定・発掘



◆ 取り組み方針 ◆

(1) まちの魅力の発信

市内外に向けて「所沢ブランド」をPRするために、市の広報紙・ホームページはもとより、マスメディアや各種情報ツールの有効活用やロケーションサービス等を通して、より効果的なまちの魅力の発信を図ります。

また、イメージマスコット「トコロん」をシティセールスの広告塔として積極的に活用し、世代や地域を超えたファンの拡大に努め、本市の知名度向上を図ります。

(3) まちへの誇りや愛着の醸成

市民が「住んでよかった」、「住み続けたい」と感じるまちの魅力や、企業・事業者が「業務の拠点としたい」と感じる良好なイメージを向上させることで、本市への郷土愛や一体感を深め、市民一人ひとりが、だれもが選ぶまちの推進役となり得る風土を作ります。さまざまな視点から「所沢らしさ」を再認識し、「所沢ブランド」推進の裾野を広げることで、まちへの誇りや愛着の醸成を図ります。

(2) 地域・経済の活性化

「所沢ブランド」を高め、広く市内外に周知することで、本市のイメージアップを図り、市民生活やまちに潤いややすらぎ、活気を生み出します。まちににぎわいを創出することで、経済的な波及効果も期待されます。その活性化に向けては、豊かな自然や良好な住環境を維持しつつ、観光・商業資源の有効活用や、ソフト面・ハード面それぞれのまちづくり施策の充実に横断的に取り組んでいきます。

(4) 総合的推進に向けた連携体制

「所沢ブランド」が世代や地域をこえて定着し、より持続的かつ広範囲に浸透していくには、行政のみならず、市内民間企業、関係団体、教育機関等との協働が不可欠です。都市イメージに沿った「所沢ブランド」の総合的な推進に向けては、外部からの意見を積極的に採り入れ、産官学民それぞれの利点を最大限に発揮し、それぞれに有益となる連携・協力体制を形成し、強固なものにします。

◆ 計画期間における目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|-----------|----|-----|----------|
| 所沢への定住意向率 | % | 78 | 80 |

説明：本市への定住意向を測る指標です。

現状値は、平成25年度の市民意識調査の設問「あなたは、所沢市に住み続けたいと思いますか」に対し、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と答えた人の割合です。

目標値は、80%をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|-------------|----|-----|----------|
| 全国住みよさランキング | 位 | 372 | 100 |

説明：本市のブランド力を測る指標です。

現状値は、東洋経済新報社が公表する「住みよさランキング」の平成25年度の本市の順位です。

目標値は、全国100位をめざすものです。

| 指標名 | 単位 | 現状値 | H30年度目標値 |
|------|----|-------|----------|
| 観光客数 | 千人 | 5,739 | 7,000 |

説明：観光に関する取り組みの成果を測る指標です。

現状値は、平成25年に市内を訪れた観光客数（観光入込客統計調査）です。

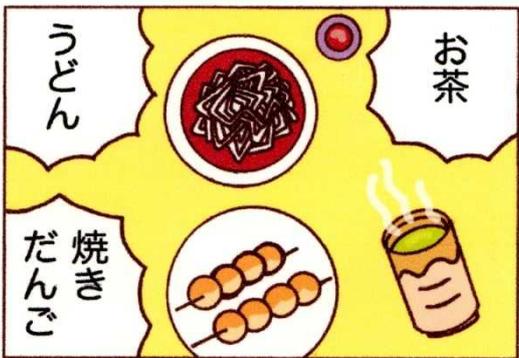
目標値は、平成30年までに7,000千人をめざすものです。



トコロん劇場①



『 所沢といえば… 』



所沢市では、「所沢を動かす」という思いを市民の皆さんと共有しながら新たなまちづくりに繋げることをめざし、市の課題に対し自由な発想による提案を広く募集する「みんなのアイデアコンテスト」を実施しています。

平成25年度開催の「みんなのアイデアコンテスト」最優秀賞に輝いた「発掘☆所沢☆トコロん四コマ漫画コンテスト」を平成26年度に実施し、応募のあった四コマ漫画の中から、この計画書では最優秀賞、優秀賞の4作品を掲載しています。

※掲載ページ
p16, p51, p131, p164

トコロん四コマ漫画コンテスト 最優秀賞受賞
川野 良浩さん作品



3

まちづくりの目標

